

園だより 6月号

2019年5月28日
中野区立ひがしなかの幼稚園
園長 若槻 容子
<http://nk-higasinakano-k.a.la9.jp/>

『「やってみたい」「できた」「楽しい」「うれしい」がたくさん毎日に!』

副園長 青木 仁望

先日行った親子参加行事「わくわくファミリーデー」では、園内に親子の笑顔や歓声が響く賑やかな行事となりました。たくさんのご参加ありがとうございました。いつもと異なる雰囲気の中でも、お気に入りのコーナーを見付け楽しんでいる子どもたちの姿があちらこちらに見られました。

いま、日常の保育の中でも同じように、子どもたちは自分の思いを様々に表しながら、遊びや生活を進めています。

3歳児Aちゃんは「お砂場したい!」と園庭に出ようとしたのですが、カラー帽子がうまく被れず「先生、できないよう」と四苦八苦。教師が被り方を教えると、「できた!」とにっこり。「これからお料理するの!」と、砂場へ向かっていきました。

4歳児Bちゃん。鉄棒に登れず「のぼれない!」と、悔しそうにしていました。すると、前回りが得意なCちゃんが「腕に力を入れるんだよ。こうやって…」とやってみせてくれました。それをじっと見ていたBちゃんはその後も鉄棒に挑戦。そして、ある日「先生、来て!」と呼ばれたので鉄棒へ行ってみると…くると前回り!「Cちゃんに教えてもらったんだ」とうれしそうに報告をしてくれました。

5歳児Dちゃん。ホールで「滑り台を作るの」と大型積み木を運ぼうとしていましたが、大きな積み木がうまく持ち上げられず困り顔。どうするのかな…と見守っていると「誰か、手伝って」と周りで遊んでいた友達に声を掛けていました。すると「いいよ」とEちゃんがやってきて二人で協力して運び始めました。「何を作るの?」「滑り台」「いいね。じゃ、公園にしようよ」等と会話が弾み、その後も次々と積み木を運んで公園づくりが始まりました。そして、いつの間にかDちゃんは「持てないよう」と言っていたはずの積み木も「積み木の下に手を入れて…」と一人で運べるようになっていました。

このように、やりたいことを実現させるために考えたり工夫したりすることや諦めずにやり遂げることは、遊びや生活を自分のこととして受け止め「意欲的に取り組む力」や、分からないことや難しいことは教師や友達に聞きながら「粘り強く取り組んでいく力」につながっていきます。

今後も、子どもたちが「やってみたい」と主体的に取り組もうと思えるような環境づくり、じっくりと試せる時間の保障、「できた」「楽しいね」と一人ひとりのよさや頑張りを教師が認めたり友達と認め合ったりできる関係づくりに励んで参りたいと思います。

季節のはなし 「入梅」

「梅雨入り」はいつかと、そろそろ気になる季節です。「梅雨入り」は気象用語で、実際に梅雨の期間に入ることを表しています。同じように梅雨に入ることを「入梅」とも言いますが、こちらは暦の上で日付が決まっています。それは、農作業をする上では雨期を知ることはとても重要だからです。現在は太陽の黄経が80度に達した日ですが、以前は立春から数えて135日目とされていました。南北に長い日本は、北と南で気候が大きく違うため、実際は気象庁が発表する「梅雨入り」宣言が目安になるようです。

「入梅」の語源でもあるように、この時期は梅が実ります。昔から梅は三毒（食べ物の毒、血液の毒、水の毒）を断つと言われる健康食で、梅酒や梅干し作りが欠かせませんでした。幼稚園の梅の木にも、実がついていますね。どこに梅の木があるか、分かりますか?

(♪答えは…砂場の近くです♪)

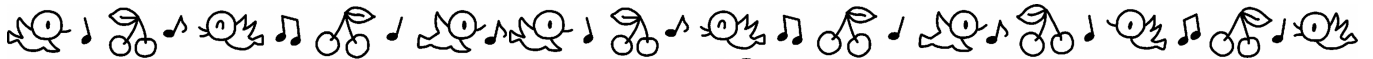


<3歳児> ○やりたいことを見付けたり、新しい遊びに興味をもったりして自分なりに関わる。

○身の回りの始末などを教師と一緒にしながら、自分でやってみようとする。

1日の生活の流れが少しずつ分かり、教師と一緒に動いたり自分の好きな場所や遊具で遊んだりするなど、安心して過ごすようになってきました。保育室のオタマジヤクシに足が生えたことがきっかけとなり池のオタマジヤクシを見に行ったり、自分の収集カップを持って園庭でさくらの実を集めたりするなど、徐々に行動範囲も広がりつつあります。教師の動きや周りにいる友達の楽しんでいる遊びにも少しずつ関心を広げ、自分なりに関わっていけるように援助していきたいと思います。

また、弁当の支度やトイレ、降園準備などで、自分でできたことを教師に伝えながら身支度をする姿も見られるようになってきました。部分的に手伝いつつ見守り、「自分でできた」といううれしい気持ちを大切に、一人ひとりに応じて援助していきます。



<4歳児> ○自分のしたいことをしながら、同じ場で過ごす友達に親しみを感じる。

○学級のみんなと一緒に動いたり、動きや声を合わせたりすることを楽しいと感じる。

○水遊びに必要な身支度や約束を自分なりにしていき、水に触れることを楽しむ。

「今日もダンゴムシ探したい」「ピザ屋さんやろう」と、気に入った遊びを繰り返して過ごしています。自分のやりたいことをしながら、同じ場にいる友達のことを見たり、動きを真似たりする姿も見られるようになってきました。引き続き、友達に関心を持ち、同じ場で過ごす楽しさを感じていけるように援助していきたいと思います。

学級のみんなで簡単なゲームをしたり体操をしたりする際、自分なりに参加する姿が見られます。友達と動きや音を合わせることを楽しみ、みんなで動く心地よさを感じられるようにしていきたいと思います。

また、着替えを教師と一緒にしたり、安全に遊ぶための約束を知ったりしていきながら、プールに入ったりシャボン玉をしたりして水に親しむ活動を楽しめるようにしていきます。



<5歳児> ○自分なりのめあてをもって工夫したり試したりして遊ぶことを楽しむ。

○友達と遊びながら、自分の気持ちや考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする。

○栽培物の世話を通して生長や変化に気付いたり、栽培物を収穫して味わったりする。

様々な素材を使って人形の家を作りながら「寝るところにしよう」と見立てたり、泥団子に夢中になって白砂をかけたりなど、自分のしたいことを見付けて、遊びを楽しむ姿が見られます。繰り返し遊ぶ中で、自分なりのめあてをもち、実現するために工夫したり試したりすることを楽しめるようにしていきたいと思います。友達と遊ぶ場面では、自分の気持ちを相手に伝えようとしていますが、口調が強くなったり、自分の思いを言えずにいたりする姿も見られます。教師が仲立ちをしながら、互いに思いを伝え、一緒に遊びを進めていけるように援助していきたいと思います。

さらに、先日植えた夏野菜の世話をしながら変化に気付き、生長を楽しみにしたり、収穫を楽しんだりできるようにしていきます。野菜を収穫したり調理したりしてみんなで会食する「カレーパーティー」に取り組み、友達と力を合わせたり、役割を分担して自分の力を発揮したりできるようにしていきます。